



ほけんだより 6月



2024年6月3日

聖隷のあ保育園

保健部会

子どもたちが大好きな水遊びの季節がもうすぐやってきます。ただ、夏は皮膚トラブルが多い季節でもあります。適切な対処方法や予防方法を知って、楽しく過ごすことができるよう、今回はこれからの時期に子どもに起こりやすい皮膚に関する病気についてお伝えします。

夏に多い皮膚トラブル



汗で悪化する皮膚疾患

あせも

汗を大量にかき、その汗や汚れで汗の出口が詰まってしまう事が原因です。

予防…衣類、室温で温度調節します。汗をかいたら拭き取って清潔を保つといいでしょう。

アトピー性皮膚炎

かゆみのある湿疹が長期にわたり出たり消えたりします。汗でかゆみが強くなり、引っ掻いて症状が悪化します。また、特に夏は紫外線が強く、外部の刺激から身体を守る皮膚の機能が低下することがあります。

虫刺され

夏は皮膚を出している面積が多く、虫や蚊のいる場所に出かける機会も増えます。皮膚を覆う服装や虫よけ剤を用意し、刺されないよう努めましょう。 *虫よけ剤（ディート不使用のものがよい）



掻いた傷からの感染

とびひ(伝染性膿痂疹)

湿疹や虫刺されなどを掻き壊した部分に細菌が感染し、そこから「飛び火」したように周辺や離れた部位に症状が広がります。広がる前に、早めの受診が必要です。また、他のお子さんにうつさないよう、登園するときは患部を覆ってください。

水いぼ(伝染性軟属腫)

ウイルスによる感染症です。ひっかき傷や毛穴からウイルスが侵入して、光沢のある小さなイボが発生します。このイボを引っ掻くなどして内容物が出ると他の人や自分の身体の別の所に感染を広げます。アトピーのお子さんは悪化しやすいです。プールの際は絆創膏等で覆ってください。

～かゆみを抑える対策 3本柱～

1. 皮膚の清潔を保つ

(刺激の少ない石鹸使用)



2. 保湿



3. 冷やす



感染性の皮膚疾患にかかった人は、タオルや衣類などを家族や他の人と共用しないようにしましょう。